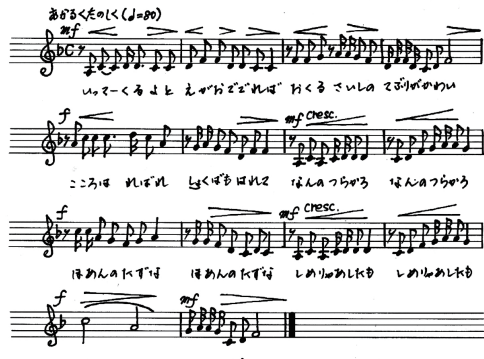


せんだい・鉾山の歌

鉾山保安法10周年記念

やまのひかり

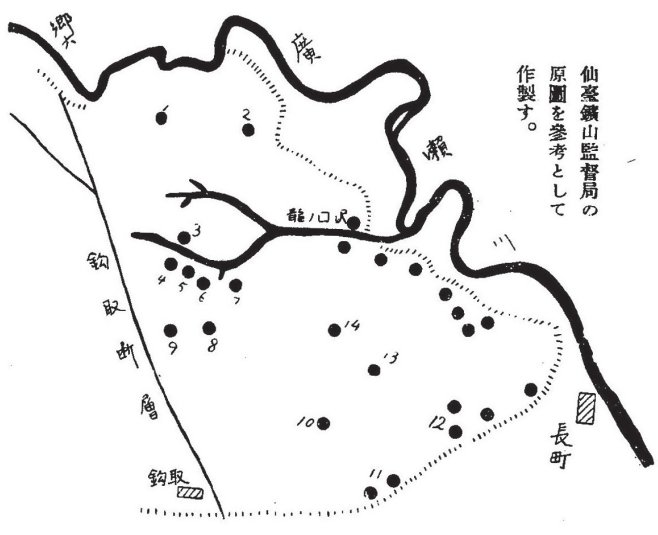
作詞 三塚康文
作曲 福井文彦



ト 行ってくるとよ 笑顔で出れば 一服酒なら 仲間と共に
 返る筆字の 手紙が可愛い ますは点検 安全作業
 心はほほえみ 職場も晴れて 足踏ぬめりや 気持ちもはずむ
 何のつらさも 保安の手帳 鉾山は宝だ おいらの誇り
 締め切りや明日も 楽しいらら どんと出そうぜ くらがねこね

ト かがり発破だ 待ちはよいか 四 無事を祈って 夕陽の団圓
 心許さず 最後の五分 待ってる筆字を 心にうかべ
 度胸自慢は 災害のもと 頼み足どり 口笛ふけば
 守る気持が 命の綱だ 山は夕暮 口笛ふけば
 今日も元気で 今日も元気で 嬉しい笑顔 これも保安を 守ったおかげ

仙台鉾山保安監督部



第十四図 仙臺附近の亞炭坑分布圖

- | | |
|-------------|---------------|
| 1.....三居 澤 | 8.....堂ヶ 澤 |
| 2.....龜 阿 | 9.....金 剛 澤 |
| 3.....宛 名 倉 | 10.....芦ノ 口 澤 |
| 4.....机 ノ 澤 | 11.....金 洗 澤 |
| 5.....香 箱 澤 | 12.....鹿 野 澤 |
| 6.....西 石 倉 | 13.....二 ツ 澤 |
| 7.....東 石 倉 | 14.....二 ツ 澤 |

仙臺郷土研究・第2巻第10号(昭和7年10月)掲載の「仙台付近の亞炭坑分布図」。三居沢、金剛沢など現行の地名に混じって「香箱沢」「机ノ沢」といった雅びな名前も。

鉾山名が語る地域史

旧地名・人名いりみだれ

亜炭に関する聞き取り調査をしていると、必ずと言っていいほど鉾山名のあいまいさ問題に直面する。炭鉱の様子については話はずんでも名前が覚えていかなかったり、人によって語る名前が違ったり。地図にも炭鉱マークしかないことも多く、実態は深い闇の中だが、閉山から半世紀以上が経ってすっかり地名も変わってしまった。資料に残る鉾山名から地域史を読みとくのもまた一興。ほんとはどうなの？ アナのお名前なんてーの？

亞炭香報

発行所 亜炭広報社
編集人 伊達伸明

第八号

平成二十七年
三月二十五日

旧地名の宝庫

明治33年に鉾山法が改定され、それまで「官許を要する林産物」だった亜炭が鉾山物として取り扱えるようになったため、大小さまざまな業者が各自「こぞ」という場所を出願して採掘を開始した。仙台鉾山監督編纂の「鉾区一覽(大正15年版)」には、三居澤、沼底、鳥岡、黒沼、清水澤、前掛、鹿野、二平、根岸、西足山、二ツ澤、狸舩、宛名倉、堂ヶ澤、舟戸家、富澤、越路、猪落、青葉などの炭鉱名が記載されており、また昭和7年の仙台郷土研究にも、机ノ澤、香箱澤などといった、そこから産する埋木で作られた品物を思わせる雅びな鉾山名が載っている(上図)。沼底は現在の青葉の森周辺、西足山は大年寺山、宛名倉は奥竜ノ口の左岸(青葉山ゴルフ場側)一帯の旧名である。

沢名が多いのは

この中には沢名を用いたものが数多くある。これは鉾区開発の際に、沢水の浸食によって露出した炭層を目安に採掘場所を決めることが多かったためである。

「守る保安が命の綱だ」

明治34年に設置された仙台鉾山監督部が改組・改称を経て、昭和24年に仙台鉾山保安監督部となるが、この年に発令された鉾山保安法の10周年を記念した歌がある。その名は「やまのひかり」。鉾山労働者の使命感と心意気を高らかに歌い上げる。作曲は市内の校歌や応援歌などに多くの作品を残した福井文彦氏。

愛宕下道水トシネル軸
鹿落焼
沈殿泥油炭化研究会

人名由来も

家族経営の小規模坑でも登記の際には縁起や由来にちなんだ屋号を用いることが多いが、白鳥、阿坂などのように鉾区権者の苗字をそのまま用いたところもあった。一度掘り始めると一定期間同じ場所を同じ坑夫が担当することが多いので、鉾区権者がなくてもその坑があるわけではない。そうした中で沢奥は探査調査の有効候補であった。

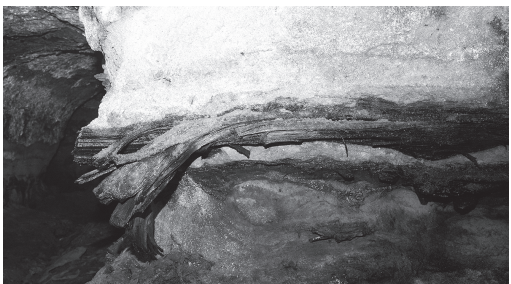
鉾区権委譲により

現在住宅地になっている八木山一帯も以前は複雑に谷と峰が入りくみ、堂ヶ沢、芦ノ口沢、東二ツ沢、西二ツ沢等多くの沢が存在した。尾根伝いの生活道やそれを繋ぐ山道が網の目のように走り、往来する炭焼き・開拓農民・炭坑関係者たちは、原野の中の数少ないランド

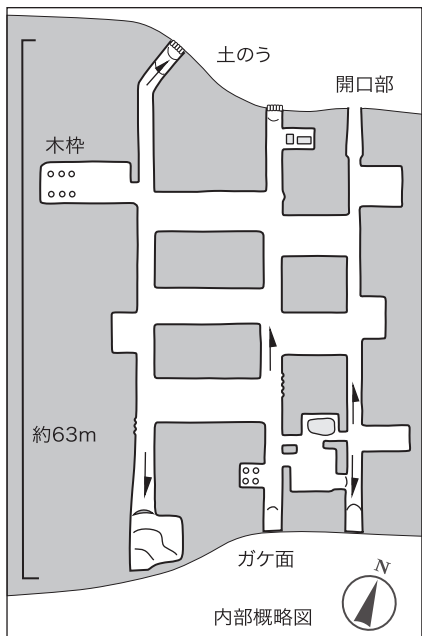
軍用地下壕も調査

3月に報告会

東北大学 園内植物



江戸時代は仙台城の「御真林」として、維新後は陸軍の演習地、終戦後は米軍に接収され、昭和32年に返還されるまで常に一般の立ち入りが制限されてきた青葉山の現東北大学植物園一帯に残る採掘坑調査の報告が3月11日に園内の講義室で開催され、昨年度「亜炭香古学」の活動の一環として進められた地下壕の調査内容が発表された。野営の演習や軍事倉庫と思われる壕の中には亜炭の見学は不可。



壕内に見取図

平行する幅1.8m程の3本の廊下間に大広間がみだくじ状に並んだ構造。南向き(図面下方向)にやや下っており、排水溝が掘られている場所もある。ところどころに支保工(坑木)跡と見られる凹み、木枠、磚子などが残る。床面積は約840㎡。

に需要は減少。そこに坑夫の高齢化、鉾区権問題が加わる。大多数の零細坑は他鉾山との合併や大規模坑への吸収、権利譲渡などをくり返して生き残りをはかるが、その都度改名することになるため、坑夫や鉾区が同じでも複数の名前が併存することになる。八木山の日赤病院の向かい側にあった堂ヶ沢炭鉱は、付近を流れる沢由来の名前だが後の権利者名で野又炭鉱と呼ばれるようになった。前述の沼底炭鉱も後に所有者が変わって東拓炭鉱となる。また現在の大年寺山周辺の「根岸」「西足山」は吉田探炭所、仙台合同炭炭会社向山探炭所という時期を経て、さらにその後吉田氏が経営する「八松炭炭鉱」に一本化された。

亜炭香報は、地域資源を再発見するアートイベント「亜炭香古学 2014」《企画制作/伊達伸明、(公財)仙台市民文化事業団(事業課 022-301-7405)》の活動の一環として発行されています。

本紙の編集及び「亜炭香古学」開催にあたって下記文献を参考にしました。引用資料として書籍広告風に掲載し、謝意と敬意を表します。

宮城縣編纂
宮城縣寫真帖
啓東紀念行
明治四十一年十月四日發行

印刷者 木戸有直
東京市日本橋區蛸薬師二番地
印刷所 東京印刷株式會社
東京市日本橋區蛸薬師二番地

顕微鏡下の化石
奥津春生著
左手に棒状の埋木を持ち、右手に剃刀をとり、まつ切口を二三回切つてから平らにする。ついでその表面を水でぬらしておく事が必要だ。

左手で圖のやうに剃刀を握り、人差指の力で手前にくわつて静かにひく。と、かつを節のやうにくるくとまかれた切片が一枚見事に出来上つた。これを一寸、皿に入れておいた水に浸してから静かにスライドグラスの上にのせ、水でまくれた形をひろげ、これにカバーグラスをかける。これでプレパラートは出来上がりである。

発行所 目黒四郎
東京都神田區駿河臺三ノ一
印刷者 石村 照
東京都牛込區市谷加賀町一ノ二
発行所 目黒書店

木津碩堂著
新しい芭蕉翁の面影
翁の見た亜炭、翁の文書と埋木など全十五章
大正二十一年十一月五日發行

發行者 石塚猪男藏
大阪市東區本町四丁目四番地
印刷所 橋本正隆
大阪市西區阿波座上通三丁目一九番地
發賣所 石塚松雲堂
大阪市東區本町四丁目
振替大坂一三六七五番

地域地質研究報告
5万分の1地質圖幅
秋田(6)第98号

仙台地域の地質
北村 信・石井武政
寒川 旭・中川久夫

昭和61年3月24日發行

通商産業省工業技術院
地質調査所
〒305 茨城県筑波郡谷田部町東1丁目1-3

仙臺郷土句會發行
天江富彌編纂
仙臺郷土句帖
翻刻 渡邊慎也

ふるさと仙臺の日々の暮らしを詩心豊かにうたい上げた二二五〇余句

翻刻・略解 渡邊慎也
助成 公益財団法人 仙台市民文化事業団
印刷所 ハリウコミュニケーションズ株式会社

※連絡先等の引用は奥付のまま